

市場予想上回る米企業決算が米国株の支えに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 事前予想を上回る決算発表が相次ぐ

米国ではインフレ鈍化とそれに伴う利上げ停止のタイミングが意識されるなか、米主要3株価指数は堅調な展開が続いています。もっとも、今年に入ってから米国株の上昇は期待先行の側面もあり、今後の米国株の行方を探る上では、米企業業績の動向が重要な意味を持ちます。

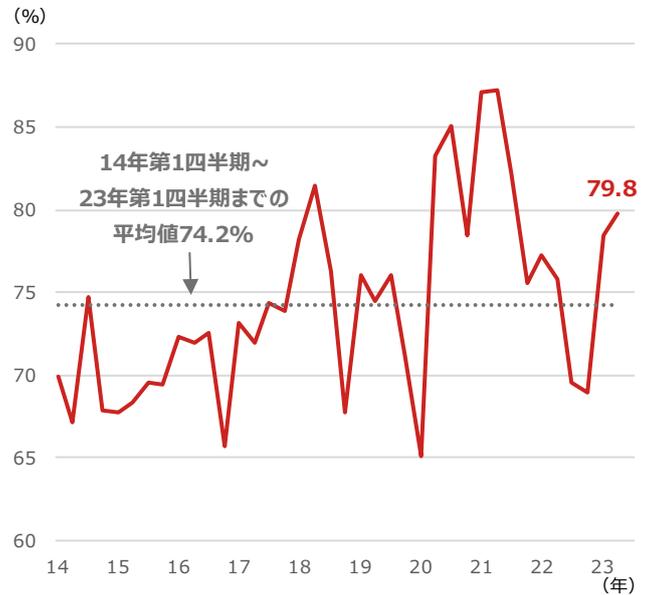
これまでS&P500構成銘柄の19.7%（時価総額ベース）の企業が23年第2四半期決算発表を終えましたが、決算実績が市場予想を上回った比率を示すポジティブ・サプライズ比率は、79.8%となっています（7月21日時点）。同比率は14年第1四半期から前四半期までの平均値である74.2%を上回っており、今回の米企業決算は現時点では市場に安心感をもたらす内容といえます（右上図）。

ポイント② 業績拡大の確度高まるかが焦点に

S&P500の23年第2四半期EPS（1株当たり利益）成長率の事前予想と実績値の差は+0.4%ポイント（7月21日時点）と、同EPS成長率も市場予想を上回っています（右下図）。

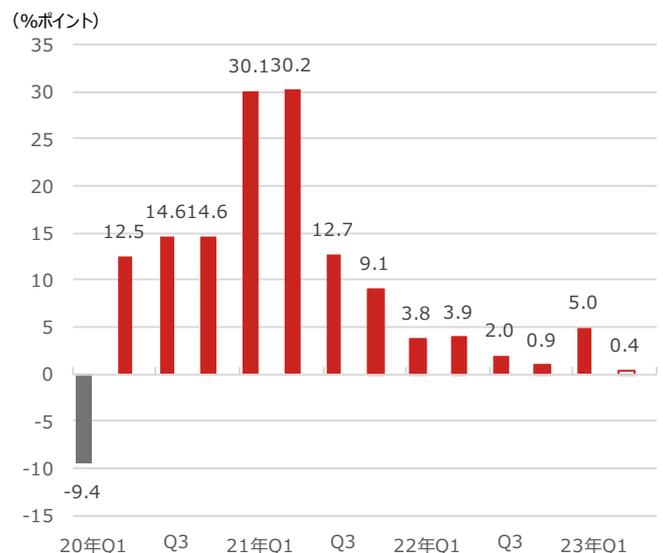
7月25日からS&P500の構成ウェイトが大きい米ハイテク大手の決算発表が相次いで予定されており、これらの企業決算が今後の米国株の方向性を決めるとみられます。市場では米ハイテク企業の業績が今後拡大基調を強めると予想されており、実際に今回の決算発表がそうした市場予想の確度を高める内容となるかが焦点となります。生成AI（人工知能）の普及期待などもあり、米ハイテク企業を取り巻く事業環境は改善に向かっています。米企業業績の拡大シナリオの高まりを背景に、米主要3株価指数は年内の史上最高値更新も視野に入ってきたといえるのではないのでしょうか。

S&P500構成銘柄のポジティブ・サプライズ比率



期間：2014年第1四半期～2023年第2四半期、四半期
・2023年第2四半期は7月21日までの集計値
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500のEPS成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（第1四半期）～2023年Q2（第2四半期）、四半期
・2023年Q2は7月21日までの集計値
・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
・EPS成長率は前年同期比
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。